令和8年8月26日

箱根町企画観光部企画課

令和８年度第２回箱根町総合計画審議会及びまち・ひと・しごと創生有識者会議
意見一覧

項　目	意　　見	議事録
施策の内容について	町はどういう方向で進むのかをある程度示すことが必要ではないか。住民から見ると、地域づくりやまちづくりは、観光に重点を置いているように見える。様々な課題があるなか、町は町全体のことを考え、将来像を明確にし、実現性を踏まえた計画策定を行ってほしい。住民の意見を取り入れないと、実効性がないものになると思うが、町が示す内容では、実効性が見えない。民泊が増えていることについて、住民は防災の面で不安を感じている。湯本の渋滞についても、これまでなかなか話が進まなかった。計画に書く以上、ある程度実行性がないと、住民は納得しない。	P.9～10
	渋滞対策を最重要課題と位置づけ、道路新設等の長期的取組と並行して、短期的取組も進める必要があると思う。エレベーター付きの歩道橋設置、横断歩道の集約と押しボタン式信号の導入を提案する。町内各地で大型ホテルの開発工事が進んでおり、それらの開業後は、さらに渋滞が悪化するのではないかと危惧している。宿泊税やクラウドファンディングの活用も検討し、ある程度予算を投入して対応してほしい。	P.11～12
	湯本の渋滞について、町民意識や既存の意見を根拠として整理し、県に対し、説得力のある説明ができるようにするべきである。渋滞対策については、計画が始まってから所管課が集まって何をするのかを決めるのではなく、計画策定の段階で施策の方向性を定め、可能な限り具体的な解決策を計画へ盛り込んでほしい。	P.13
	同じ行政の立場からすると、町は踏み込んだ記述をしたと思う。 渋滞周辺箇所の歩行者の人流を分析し、横断歩道の必要性や配置について、地元へ根拠を示すことが重要である。その上で地元と議論を進めるのであれば、重点戦略２の施策①-２は渋滞対策に向けた大きな前進となると思う。	P.14
	施策ごとの実施主体を明確にしてほしい。特に、湯本の渋滞対策については、特別重点施策としてプロジェクトチームを設置し、期限を設けて結論を出すことまで記載すれば、町の本気度が伝わると思う。	P.16
	人材不足については、観光分野だけでなく、介護など生活を支える分野の維持に直結する課題である。北海道のニセコのように、観光業の賃金上昇で生活関連分野の人材確保が困難になるおそれもある。暮らしと観光と行財政のサイクルを確立するためには、暮らしの基盤を固める取組が必要である。	P.18

令和8年8月26日

箱根町企画観光部企画課

令和８年度第２回箱根町総合計画審議会及びまち・ひと・しごと創生有識者会議
意見一覧

項　目	意　　見	議事録
施策の内容について	函嶺白百合学園の生徒が、箱根登山電車の中で、すれ違う車両に向かって、「箱根に来てくれてありがとう」という気持ちから、手を振っているという話を聞き、観光地である箱根町に対する町民の愛着は既にあるように感じている。生徒が考案したメニューをホテルで提供する事例のように、地域との接点を通じて子どもたちの地域への愛着を育むような教育を進めてほしい。	P.21～22
	「コンテンツ」という表現は、消費的な印象を与えるため、次世代へ継承する価値を表す「資産」等の表現を検討してほしい。	P.25
	町職員の育成に加え、町内居住を促すことも必要ではないかと思う。職員用の寮・宿舎等を含め、職員が町内に住み、地域を支える姿勢を示すことは、移住を考える人への説得力にもつながると思う。	P.25
	観光コンテンツの充実について、町と事業者、どちらが何を担うのか不明確である。行政の立場から、事業者をどのように支援し、どのような手段で何を目指すのか、具体的に分かるように示してほしい。	P.26
	現時点では、宿泊税について記載することは難しいかと思うが、財源検討会議では、新たな財源についても検討していくという方針が示されていると思うので、少なくともその点は計画の中へ示していただきたい。	P.26～27
構成について	重点戦略は、対象となる層ごとに整理し直すことも検討してほしい。子どもだけでなく、高齢者や子育て世代などに届く表現が必要ではないかと思う。特に親が箱根で子どもを育てたいと思える施策を明確にすることが必要ではないかと思う。	P.15～16
	分野別方針は、町がこれまで通り継続して担う業務を示し、重点戦略は重要な課題に対応するものとして、今後５年間で解決までの道筋をつけるものと、そこまで至らないまでも準備や検討を行うものと分けて書いた方が良い。道路新設についても、県への働きかけを継続する姿勢を工夫して表現するべきである。	P.17～18

令和8年8月26日

箱根町企画観光部企画課

令和８年度第２回箱根町総合計画審議会及びまち・ひと・しごと創生有識者会議
意見一覧

項　目	意　　見	議事録
構成について	重点戦略の８と９は、行政内部の取組であり、内容も当然のことが書いてあるため、一つにまとめることを検討してほしい。その上で、特に重要な事項や、従来の進め方を大きく変える取組を重点的に示すべきである。	P. 22～23
	各重点戦略には、相互に関係する課題があると思う。施策間の連携については、重点戦略の中でなくても、実施計画の段階でも良いので、どのように連携していくのかということが具体化しやすくなると思うので、ぜひ検討いただきたい。	P. 24～25
	重点戦略８と９は一緒で良いのではないかというご意見があったが、コンビニで取得できる証明書の種類が小田原市よりも少ないことや、入湯税を納める時に、手書きで宿泊者数や金額を書いて報告しているなど、デジタル化ということがまだ必要な段階かと思うので、あえて別にしても良いのではないかと思う。	P. 27
その他	湯本渋滞に関する「周辺住民」とは主に湯本地域を指すと考えられる。地域の意見が町全体や観光への影響も踏まえたものか判断できるよう、関係機関との協議内容や検討経緯を公開してほしい。	P. 13～14